



平成10年10月19日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所2号機の原子炉起動と調整運転開始について（第9回定期検査）

当社、敦賀発電所2号機（加圧水型軽水炉：定格出力116万キロワット）は、本年9月11日から第9回定期検査を実施していましたが、明日20日の早朝に原子炉を起動し、同日午前中に臨界となる予定です。今後は諸試験を実施し、今月下旬（10月23日～25日頃*）に定期検査の最終段階である調整運転を開始し、11月下旬には通商産業省の最終検査を受けて営業運転を再開する予定です。

※タービンバランシング作業（調整運転開始前にタービンの回転数を上昇させタービン車軸の振動を測定し、振動の状況によっては、タービンの車軸におもりを取り付け、振動が小さくなるように調整する作業）等の実施の有無により、調整運転の開始日時が変わります。

1. 燃料集合体検査結果燃料集合体の外観検査を実施した結果、異常は認められませんでした。燃料集合体全数193体のうち、計画的に69体（うち68体は新燃料集合体で、新燃料はすべて高燃焼度燃料集合体）を取り替えました。
2. 蒸気発生器伝熱管の渦流探傷検査結果蒸気発生器伝熱管全数（13, 524本）について、渦流探傷検査を実施した結果、異常は認められませんでした。
3. 安全系6.9KV2A母線低電圧による非常用ディーゼル発電機2Aの起動・給電（図—1参照）9月24日、安全系6.9KV母線電圧低、安全系480V母線電圧低警報が発報しました。この警報により待機状態にあった非常用ディーゼル発電機2Aが自動起動し、予備変圧器から受電していた6.9KV2A母線は非常用ディーゼル発電機からの受電に切り替わりました（9月25日に予備変圧器からの受電状態に復旧）。
原因は、所内電源用の制御盤内の養生作業中、養生シート上に異物が落下し、予備変圧器保護用リレー端子間が短絡、誤信号が発信したことから、予備変圧器からの受電用しゃ断器が開放したためと推定されました。対策として、今定期検査中に当該制御盤を含む重要な制御盤について盤内の異物点検を行い、異常のないことを確認するとともに、制御盤内の作業時における異物管理の徹底を図るよう工事要領書等を改訂しました。

4. 次回定期検査の予定
平成11年 冬頃

以上